

第49回「市民の皆さんとランチで対話」概要

団体名	下竹原地区橋梁架設受益者組合
開催日時	平成21年9月3日(木) 11:30 ~ 12:30
開催場所	二ツ井町庁舎庁議室
出席者	下竹原地区橋梁架設受益者組合の皆さん 8人 (能代市:市長 他5人)
案件	昭和54年災害復旧事業として組合で架設した橋梁の管理について 他
会議の概要	<p>(...下竹原地区橋梁架設受益者組合の皆さん ...市長 ...課長等)</p> <p>・下竹原地区橋梁架設受益者組合...河川改修により、川で農地が分断される農家への対策のために橋が架けられた。当初の木橋は、昭和47年水害で流失し、その後、「橋梁架設受益者組合」を組織し、54年7月に「災害復旧事業」として現在の橋を架け、大事に管理してきた。</p> <p>1 昭和54年災害復旧事業として組合で架設した橋梁の管理について</p> <p>この橋は、農業用だけでなく、地域の重要路線であり、継続して維持管理する必要があるが、どん底の農業経済と、組合員の高齢化、後継者も不在で、補修にも事欠く状態である。ぜひ、市で受納し、市で維持管理をお願いしたい。</p> <p>「原則論」では、「市道認定」には「幅」と構造設計上の「耐荷重」が問題となる。幅も狭く(認定基準幅員4.2m、当該橋梁有効幅員2.2m)、市で受納し管理するのは、現状では難しい。</p> <p>なぜ河川改修の際に作業道や農業用で整備されなかったか？作業道や農業用として対応できないか。</p> <p>詳細は不明だが、構造設計上の「耐荷重」が問題で、詳しい調査が求められる。</p> <p>当時、農業用として検討されたが、事業費がかさみ、受益者負担も高額で断念した経緯があると聞いている。</p> <p>県補助の「土地改良事業」での対応も可能と思うが、「受益者負担」が伴う点は理解願いたい。今後対応可能な小規模事業等研究させてほしい。</p> <p>当時、種部落からも建設補助金が交付され、公共的に重要な橋との認識と考えている。</p> <p>また、周辺は山菜が豊富で利用者も多く、地区住民の散歩コース等としても活用されている。</p> <p>他の県補助事業等があれば対応可能と思う。検討したい。</p> <p>主旨はわかった。市道認定は難しいと思うが、検討させてほしい。</p> <p>2 当該橋梁及び連結する農道について市道認定を</p> <p>橋に繋がる道路は、農地基盤整備の際に敷設された。幅も広く、市道認定し、活用してほしい。</p> <p>「目的」が農地用で、民家への生活道ではないので、市道要件に合致しない。</p> <p>3 地域の諸課題、後継者問題、農業経営問題等の情報交換</p> <p>「農業後継者問題」だが、「コメ」では生活が成り立たず、今後後継者不足が心配さ</p>

れ、状況は厳しい。

農地も、行政から「集約」等指導されるが、「先祖伝来の土地を守る」意識が強く、簡単には変えられない。

当地は、土質も畑作に適さず、若者も農業への意欲が持てない状況である。

現状はそのとおりと思う。

現在の、全国一律の「コメ政策」では、米価上昇の要素はなく、コメで生活するには、農地拡大以外ないと思う。

理想は、おいしく安全・安心なコメの産地にはしっかり作らせ、一等米が2割を切る地域では転作させる必要があるが、国会議員には選挙があり、地方が「適地適作」を主張しても、すぐには変わらない。

農業者の高齢化もあり、将来は農地集約化も必要と思う。

地質の問題だが、後継者確保のため「所得が上がる農業」を目指す必要があり、土地を借りたり、土を作ってコメに変わるモノに取り組む必要がある。行政もJA等と協力していきたい。

「まちづくり」の柱の一は、基幹産業「農林業」の元気の再生。

市には高収入になる野菜(社・山外・ミョウガ・キャベツ・アスパラ等)があり、どこの市場でも「もっと量を作り、送ってくれ」と言われる。技術・手間はかかるが、JAと協力して取り組み収入につなげたい。

以前、JAの営農指導員が、当地の野菜栽培に取り組んだが、結局、稲単作の結論になった経緯もある。また養豚を手がけた農家も成功しなかった。過去の実例もあり、勇気を持ってコメ以外に取り組む機運はなかった。

いずれ、コメには頼れない現状があり、どうしたら高収入・後継者育成に繋げるか考えていかなければならない。